公益社団法人日本薬剤学会　2017 年度事業計画

（2017 年 4 月 1 日から 2018 年 3 月 31 日まで）

はじめに【担当：今井会長】

1985 年に任意団体として設立された本学会は，2015 年に創立 30 周年の節目の年を迎えた．この間，2006 年に文部科学大臣より社団法人としての設立認可を 2012 年には内閣総理大臣より公益社団法人としての移行認定を受け，科学の発展とともに社会貢献を目指した活動を行うことが求められている．本学会の事業は定款に定める以下の各事業を総称して「薬剤学及び関連諸領域に関する情報提供及び啓発，研究の振興，調査研究並びに評価により，薬剤学の進歩とその成果の利用普及を図る事業」として認定を受けており，理事会は別紙に詳述するこれらの事業を，公益法人としてのガバナンス体制の下に実施する．

(1)　学術集会，研修会，講習会等の開催
(2)　機関誌，学術雑誌，その他出版物の刊行
(3)　研究の奨励及び研究業績の表彰
(4)　国内外の関連学協会等との連絡及び協力
(5)　研究及び調査
(6)　薬剤学に関する学識及び技術等の認定
(7)　その他この法人の目的を達成するために必要な事業

基本方針

1　日本の薬剤学に関するサイエンスレベルの向上を図るとともに，新規医薬品の開発および医療現場における医薬品の適正使用への取り組みを推進する．
2　医学・工学をはじめとする関連諸領域との連携をより緊密なものとし，学際的な研究協力を推進することによって，製剤・DDS 等における新しい技術開発に積極的に参画する．
3　産官学一体となった活動を通じ，医薬品の有効性と安全性を担保するための規制上の問題に関して公益的な立場から提言を行う．
4　薬剤師の職能の向上を目指して，国際標準的な医薬分業を推進する．
5　学会活動の国際化を目指して，FIP（International Pharmaceutical Federation，国際薬学連合）などの国際学会および他国の薬剤学関連の学会との協力体制を構築する．
6　薬剤学の知識・技術を基盤として，機能性食品や化粧品などの開発，適正使用への取り組みを支援する．
7　2010 年度より発足した製剤技師認定制度の社会的認知度を向上させるとともに，各企業への製剤技術の普及・伝承に注力する．
8　共通の研究目的等による分野横断的なユニットであるフォーカスグループによる活動を強化する．

公益目的事業１「薬剤学及び関連諸領域に関する情報提供及び啓発，研究の振興，調査研究並びに評価により，薬剤学の進歩とその成果の利用普及を図る事業」

会長【担当：今井会長】

1　APSTJ 2025 推進事業

- 理事会主導により，日本薬剤学会のこれからのあり方“APSTJ 2025”の検討・策定を行う．
- 日本学術会議が大規模研究のために策定しているマスタープランの推進についての検討を行う．
- 国内外の関連学協会との交流事業を推進する．

2　国際標準医薬分業推進事業

- 国際標準的な医薬分業（完全分業あるいは強制分業）への移行について，必要な情報を整理しつつ，実施に向けての戦略を立案し，関連団体と連携しながら行政への働きかけを推進する．

副会長総務担当理事【担当：竹内副会長】

1　学会賞等表彰事業

- 学会賞選考委員会
- タケル&アヤ・ヒグチ記念各賞選考委員会
- 永井記念国際女性科学者賞選考委員会

1.1　薬師メダル

薬剤学分野の科学・技術と薬剤師職能を統合化したシステム薬剤学に関して，卓抜した業績を有する者を理事会の推薦により表彰する．

1.2　学会賞

薬剤学，製剤学，製剤技術並びに医療薬剤学の発展に関し卓抜した業績を有する者を表彰する．

1.3　功績賞

本学会の運営・発展への貢献，薬剤学教育への貢献，薬剤学，製剤学，製剤技術並びに医療薬剤学の振興への貢献を行った者を表彰する．

1.4　奨励賞

薬剤学，製剤学，製剤技術並びに医療薬剤学の基礎及び応用に関し，独創的な研究業績を挙げつつあり，これらの分野の将来を担うことが期待される若手研究者を表彰する．

1.5　タケル&アヤ・ヒグチ記念栄誉講演賞（西暦偶数年度に実施）

故タケル・ヒグチ教授の薬剤学・製剤学分野における学問上，教育上，医療上並びに医薬品工業上の発展に対する偉大な功績ならびに故アヤ夫人の功を記念し，同記念栄誉講演の講師を表彰する．

1.6　タケル&アヤ・ヒグチ記念賞（西暦奇数年度に実施）

薬剤学・製剤学分野における学問上，教育上，医療上，医薬品工業上の発展に顕著な功績を挙げ，受賞を励みにして更なる活躍が期待される者を表彰する．

1.7　永井記念国際女性科学者賞

薬剤学領域において顕著な業績を挙げ将来も顕著な業績を挙げることが期待される，国内外の現職の女性科学者を表彰する．

1.8　創剤特別賞

国際的に特に顕著な評価を受けた有形・無形の創剤を創成した者を臨時に表彰する．

1.9　優秀論文賞（西暦奇数年度に実施）

機関誌「薬剤学」および公式欧文誌"Journal of Drug Delivery Science & Technology"に掲載された優秀な論文の著者を表彰する．

1.10　製剤の達人称号

医薬品製剤技術の研究開発に長年にわたり従事し，高い技術を確立した者を表彰する．

1.11　国際フェロー称号

薬剤学関連領域で国際的に特に顕著な業績を上げた会員，本学会の国際賞を受賞した外国人研究者等を表彰する．

1.12　「薬と健康の週間」懸賞論文

「薬と健康の週間」への協賛として，薬学を学んでいる若い学生を対象に与えられたテーマについての論文を広く募集し，優秀な論文の著者を表彰する．

2　創剤開発・研究賞表彰事業

- 旭化成各賞選考委員会

2.1　旭化成創剤開発技術賞

国際的な製剤の品質に関する考え方の変貌に応える製剤・創剤開発の基礎及び応用に関するハード及びソフトの優れた研究を対象として表彰する.

2.2　旭化成創剤研究奨励賞

製剤の機能化，最適な投与方法とそれに合った剤形開発，製剤の処方研究によって目標とする新規製剤の開発に顕著に貢献した者を対象として表彰する.

渉外担当理事【担当：岡本理事】

1　学生主催シンポジウム事業

- SNPEE2017 実行委員会

薬剤学に関わる学生の研究室・大学間を超えた活発な交流と，口演能力や講演会運営スキルを涵養することを趣旨として，年会において学生主催シンポジウム「SNPEE2017*」を開催する．SNPEE2017 では，将来の薬剤学発展を担う学生が，幅広い研究分野の学生と議論し合い理解を深めることで，研究の発展と創薬の着想を生み出す原動力になると捉え，“自らを伝え，共に高め合う”ことを根本のテーマとする．演者の学生には，自身の研究を多く聴衆に伝えるチャンスとして，この場を提供する．特別講演の先生をお招きし，本シンポジウムの講評と将来の薬剤学を担う若手研究者に向けてのメッセージをいただく．

*SNPEE: Student Network for Pharmaceutical Education and Evolution

2　広報委員会事業

学会ウェブサイトの企画運営等を通して本学会の活動の広報を行うとともに，会員の拡大のために関連諸領域の研究者への本学会のアピールを図る．また，オンライン化される「薬剤学」誌のウェブサイトからの情報発信について編集委員会と協力しながら行う.

3　医薬品の包装と情報分科会事業

薬剤学を支える包装・情報に関し，専門の研究者・技術者が協議し，本学会会員に情報発信を行うことを目的に，年会において「医薬品包装シンポジウム」（「医療環境変化に対応した医薬品の容器・包装　～在宅医療、抗体医薬品を中心に～」）を開催する.

4　教育分科会事業

薬剤学に関わる教育問題について，専門委員が協議して提言を行う他，教育資料の企画，年会における「薬学教育シンポジウム」（「日本における Pharm D 制度の推進を考える」）を企画実行する.

国際連携担当理事【担当：尾関理事】

1　英語セミナー事業

西村友宏氏（慶應義塾大学）を委員長，本山敬一氏（熊本大学）を副委員長とする.

国際共通言語である英語での討議能力を養うため，訪日した海外研究者・国内の研究者または英語教育専門家等を講師として招聘し，講義・ディスカッションの全てを英語で行う Global Education Seminar を日本の各地区で企画する.

2　国際学会等協力事業

- FIP（国際薬学連合）

FIP の Predominantly Scientific Member Organization として，Council Meeting で重要事項を審議する他，Section/SIG にメンバーを多数派遣する等，BPS の諸活動に積極的に参画する．また、FIP Education に Delegate を派遣する.

- AFPS（アジア薬科学連合）

AFPS の Member Organization として，Executive Committee に役員を派遣する等，アジア地域における薬科学研究の発展に寄与する.

- 日韓合同薬剤学若手研究会

日韓合同薬剤学若手研究会に講演者を派遣する.

機関誌担当理事【担当：山下理事】

1　「薬剤学」編集委員会事業

「薬剤学」誌の企画編集と「薬と健康の週間」懸賞論文の選考を行う.

2　投稿論文審査委員会事業

「薬剤学」誌への投稿論文の審査と，優秀論文賞の選考を行う．

3　学会誌出版事業

3.1　機関誌「薬剤学」

「薬剤学」編集委員会の担当する依頼原稿と投稿論文審査委員会の審査による一般論文で構成される「薬剤学」誌を以下のとおり発行する．なお，2017 年より「薬剤学」誌のオンライン化を図り，2～6 号は web 配信（J-STAGE での閲覧）のみとする．

Vol. 77 No. 3　2017 年 5 月 1 日発行
Vol. 77 No. 4　2017 年 7 月 1 日発行
Vol. 77 No. 5　2017 年 9 月 1 日発行
Vol. 77 No. 6　2017 年 11 月 1 日発行
Vol. 78 No. 1　2018 年 1 月 1 日発行
Vol. 78 No. 2　2018 年 3 月 1 日発行

英文論文については，英文論文を受け付けることが可能であることから，積極的に投稿促進を図る．

3.2　公式欧文誌「Journal of Drug Delivery Science and Technology」

JDDST への投稿については，編集委員新体制にて進める．

技術・書籍担当理事【担当：楠原理事】

1　製剤技術伝承講習会事業

- 製剤技術伝承委員会

製薬企業各社でのアウトソーシングの加速により，滅失が懸念されているわが国の製剤技術を次代の製剤研究者・技術者に継承するため，座学・実習の講習会を企画運営する．今期の開催予定は次のとおり．

1.1　第 21 回シミック製剤技術アカデミー／製剤技術伝承講習会
「経口製剤の製剤設計と製造法」
2017 年 6 月 15 日-7 月 14 日　名城大学ナゴヤドーム前キャンパス

1.2　第 13 回製剤技術伝承実習講習会
「**********」
2017 年 9 月　星薬科大学

1.3　第 14 回製剤技術伝承実習講習会
「**********」
2017 年 9 月　大川原化工機（株）
／静岡県立大学薬学部　創剤工学講座

1.4　第 21 回シミック製剤技術アカデミー／製剤技術伝承講習会
「非経口製剤の製剤設計と製造法」
2018 年 1 -2 月を予定　会場未定

2　製剤技師認定事業

- 製剤技師認定委員会

医薬品メーカー等において製剤に携わる研究･開発･製造担当者で，日常業務の遂行上必要とされる共通の基礎的かつ専門的事項及び法規･制度の学識を修得している者を「製剤技師」として認定する．第 5 回までの認定試験問題と解答・解説を 1 冊にまとめた『「製剤技師」認定試験問題集』を昨年発刊し，より受験しやすくしたが，まだまだ大手製薬会社からの受験が少ないため，方策を模索していく．また，被認定者の学会への入会を推進するとともに，これら認定製剤技師の企業内での職能・役割アップについて相互研鑽を図れる機会の提供を検討していく．

2.1　第 8 回製剤技師認定試験
2017 年 10 月下旬を予定　慶應義塾大学三田キャンパス／神戸薬科大学

3　出版委員会事業

- 出版委員会

本学会の事業に関連する書籍の企画編集を行う．

3.1　「製剤の達人による製剤技術の伝承-その２（岡田 弘晃・吉野廣祐監修）」の 2017 年度中の発刊を予定．また引き続き、薬剤学会フォーカスグループ（FG）の活動に伴う各グループの代表的テーマを

総説的にまとめたシリーズ書籍，および薬剤学専門用語集の企画出版を計画する．

製剤・創剤セミナー担当理事【担当：佐々木理事】

1　製剤・創剤セミナー事業

- 製剤・創剤セミナー実行委員会

大学・製薬企業・医療機関などにおいて製剤技術に関わる研究者・学生が一堂に集い，医療・薬剤学に関し，サイエンスとテクノロジーの観点のみならず刻々と変化する時代のニーズも合わせて議論する合宿形式の討論会「製剤・創剤セミナー」の企画運営を行う．

1.1　第 42 回製剤・創剤セミナー

『究極医療（プレシジョンメディシン）への製剤・創剤の挑戦』

2017 年 8 月 24-25 日を予定　　淡路夢舞台国際会議場・ウェスティンホテル淡路

公開市民講演会事業担当理事【担当：崔理事】

1　公開市民講演会事業

一般市民を対象とした公開市民講演会を企画・開催する．

今期の開催予定は次のとおり．

2017 年 9 月 25 日(月)　18 時～　　帝京大学 板橋キャンパス

FG 担当理事【担当：森部理事】

1　FG 統括委員会事業

共通の研究目的等による分野横断的なユニットである各フォーカスグループ（FG）を統括する委員会として，事業・予算の管理を行い，各 FG に対する助言や FG・理事会間のリエゾンを担当する．

- 【経口吸収 FG】

経口吸収に関わる生体膜機能，吸収機構，体内動態，製剤化や臨床開発に至るまでの幅広い問題を統合し，新たな経口吸収研究を開拓する．今期も合宿討論会を予定．年会におけるラウンドテーブルセッション応募等にも積極的に関与する．

- 【がん治療 FG】

抗がん剤の製剤的工夫に基づく新規治療法・治療技術に関する情報発信や，臨床現場と基礎研究者を結ぶリバーストランスレーショナルリサーチの啓蒙に務めたい．今期は日本医療薬学会でのジョイントシンポジウムの開催を予定．また、製薬企業向けに経口剤に関するニーズ調査（アンケート形式）を実施し、解析を進める予定。

- 【経皮投与製剤 FG】

化粧品，医薬品，生活化成品，素材メーカー，大学研究者など様々な分野の研究者を集め，経皮投与製剤の理論と実際を検討し，経皮投与製剤研究のさらなる活性化を図る．第 9 回シンポジウムを 11 月に都内で開催予定．

- 【経肺経鼻投与製剤 FG】

吸入剤開発の基礎研究，吸入剤の吸入特性評価，製薬会社における吸入剤開発の実例，吸入剤治療に関する臨床現場での問題点について情報交換を行う．１２月頃合宿討論会を予定．

- 【核酸・遺伝子医薬 FG】

核酸医薬デリバリー技術の標準化に関するラウンドテーブルでの議論の成果をもとに、核酸医薬および遺伝子医薬に対するデリバリー製剤の標準化に関する議論を進める．その一環として、微粒子製剤の物性測定方法の「標準化」に向けて共通試薬を用いた評価を引き続き行い、その結果を年会等で報告する．

- 【薬物相互作用 FG】

薬物相互作用予測手法の問題点，最新予測手法の医薬品開発への応用に関する議論の場を提供する．薬物相互作用に限らず，薬物体内動態の個体間変動を広く捉えて議論するためのシンポジウムを開く（第 32 年会でのラウンドテーブルセッション等を開催予定）．また，他学会と

の共催シンポジウムを継続する（今期は日本医療薬学会年会（11 月）や日本臨床薬理学会（12 月）での開催を予定）．薬物動態のみならず，製剤的な工夫による回避についても議論する場を提供したい．

- 【医療 ZD と完全分業 FG】
  薬剤師が医師処方箋のレビューを含めた真の調剤を実践し，そのリスク管理により医療における Zero Defect が達成されるよう，医薬分立を基盤としたシステム・教育の構築を目指す．

- 【DDS 製剤臨床応用 FG】
  年会において核酸・遺伝子医薬 FG とラウンドテーブルを共同開催し，核酸・遺伝子医薬の臨床応用に立ちはだかる障壁について議論する．また，メンバーの様々な経験や知識を共有化するため，合宿討論会（場所：帝京大学箱根セミナーハウス（変更の可能性有），日程：未定）を開催し，議論を深めるとともに「薬剤学」へのレポート寄稿等による情報発信を行う．

- 【個別化製剤 FG】
  医療現場での研修を行い，患者個別の課題を理解し，最新の医療ニーズから科学的課題を発掘する．抽出された課題を解決するための技術開発を併せて行う．具体的には小児用製剤に関する産学コンソーシアムを発足し，基盤技術を整備する．さらに研究会およびラウンドテーブルの開催を通して，課題共有および解決のための枠組みを提案する．

- 【物性 FG】
  医薬品原薬、製剤原材料ならびに製剤の物性評価技術にフォーカスをあて，技術の発展や創薬/創剤への展開についての議論・提言を行う．今期は，2017 年 5 月に粉体プロセス FG と共催で、医薬品原薬と製剤添加剤のレギュレーションに関するラウンドテーブルを日本薬剤学会第 32 年会において開催する．また，8 月に若手研究者の研修・啓発・育成を目的とした、NMR に関するセミナーを開催する．

- 【臨床製剤 FG】
  薬剤学会第 32 年会および薬学会第 137 年会の臨床製剤関係シンポジウムの支援，他の FG との合同セミナー，FG のメンバーでの集合研修や院内製剤に関する病院薬剤師向けのセミナーの開催を企画し，臨床製剤の調製の実際について，作業効率，安定性，使用しやすいデバイス，包装形態など，これまでにない視点で臨床製剤の現状を明らかにする．加えて，臨床製剤調製に関し，資格認定制度の導入の可能性について引き続き検討する．

- 【粉体プロセス FG】
  固形製剤製造の基盤技術である粉体プロセスについて，プロセスの高効率化，製剤の高機能化，高品質化を実現するための理論，技術，最近の技術動向などについて討論し，製剤技術の向上を目指す．今年度は、年会において物性 FG と共同でラウンドテーブルの開催ならびに製剤処方・プロセスの最適化検討 FG と共同で開催するイベントを企画する．

- 【製剤処方・プロセスの最適化検討 FG】
  2017 年度は，2015 年・2016 年に実施した QbD に関するアンケート調査結果をまとめるとともに，その結果を基に QbD に関する Q&A 集作成を行う．さらに，2016 年に実施予定であった講演会を下期（2017 年 10 月～2018 年 3 月）に企画し，FG の活動成果を発表する場とするとともに，QbD に関する会員との議論の場として活用する。また，粉体プロセス FG や物性 FG と共同でイベントを企画・実施する．

- 【前臨床開発 FG】
  前臨床開発に関わる諸問題，例えば原薬形態の効率的な決定法，加速試験が困難な製剤の判断法，安全性試験の製剤設計などをテーマとして，学術内容にタイムラインやリスクマネージメントのビジネス視点を含めた議論を行う．2017 年度は第 2 回合宿討論会の開催を予定している．また FG 監修の書籍発行について立案を行う．

- 【モデリング＆シミュレーション FG】
  薬剤学領域研究を効果的効率的に推進できるモデリング＆シミュレーション技術の動向を調査する。一方、専用ホームページ等を充実し会員のニーズを探索しながら，モデリング＆シミ

ュレーション技術の普及を目指した活動計画を立案する。

2　製剤設計における種差の問題検討会（略称：製剤種差検討会）事業

製剤種差検討会に入会した会員（団体）が製剤設計における種差に関する経験事例の報告を行い，種差が影響する要因について討論し整理することを目的として，年3回を目処に事例報告会を開催する．2017年度は、日本DDS学会誌特集号（32巻第5号）で「DDS製剤設計における種差の問題」をコーディネートし、過去の経験事例を紹介する．団体会員数（2016年12月現在36団体）の増加を図るとともに，学会としての公的資金獲得の道を探る．

制度改革担当理事【担当：金理事】

1　制度改革担当事業（制度改革委員会）

- 公益社団法人として、持続性のある主体的なあるべき制度に整える．

1.1 2018年度からの本学会の代議員制度の導入を図る（2017年5月総会承認予定）．また，主体的および継続性のある本学会の事務機能を強化および効率化するために，会計業務に対する省力化した経理システムの構築と適正運営が必達である．そこで、2017年度は、事務局長が使用できる経理システムの新規導入および会計業務の専任と庶務業務を支援できる人材採用と同時に、学会支援機構の委託業務項目を見直し、効果的な最小限の投資を実施する．

年会長【担当：肥後年会長】

1　年会事業

- 年会組織委員会

本学会最大の学術集会「年会」の企画運営を行う．年会では，口頭またはポスターによる研究発表，特別講演，招待講演、各種受賞講演，各種シンポジウム，ランチョンセミナー，企業展示会等の多種多様なプログラムを設けており，定時総会もこの会期中に併催される．また，昨年に引き続きラウンドテーブルセッション形式での討論を行う．今期の開催予定は次のとおり．

1.1　第32年会
「医療価値を創造する製剤技術を世界へ」
2017年5月11-13日　　大宮ソニックシティ

学会運営　【担当：事務局】

1　理事会

学会の業務執行の決定，理事の職務執行の監督等を行う機関であり，全ての理事で組織される．法人のガバナンスを担う中心的な機関である．今期の開催予定は以下のとおり．

第1回理事会　　2017年4月頃
第2回理事会　　2017年5月頃
第3回理事会　　2017年9月頃
第4回理事会　　2018年1月頃

2　評議員会および総会

総会は正会員で構成される，学会の最高の決議機関である．評議員会は総会に上程される全ての議案について審議を行う機関であり，評議員により組織される．今期の各開催予定は以下のとおり．

2.1　評議員会　　2017年5月11日　　大宮ソニックシティ
2.2　定時総会　　2017年5月11日　　大宮ソニックシティ

以上

（参考）事業別収支（損益ベース）一覧
2016年4月1日から2017年3月31日まで

公益社団法人日本薬剤学会　（単位:円）

事業名	経常収益計	経常費用計	当期経常増減額	備考
公益目的事業会計（公1）				
APSTJ2025推進事業	0	424,030	-424,030	
国際標準医薬分業事業	0	0	0	
学会賞等表彰事業	941,386	2,917,456	-1,976,070	
創剤開発・研究賞表彰事業	1,500,000	1,299,807	200,193	
広報委員会事業	0	36,391	-36,391	
医薬品の包装と情報分科会事業	0	190,210	-190,210	
教育分科会事業	0	5,702	-5,702	
学生シンポジウム事業	108	190,108	-190,000	
国際学会等協力事業	0	2,221,121	-2,221,121	
英語セミナー事業	81,000	396,344	-315,344	
機関誌出版事業	1,646,809	8,532,087	-6,885,278	
「薬剤学」編集委員会事業	0	330,212	-330,212	
投稿論文審査委員会事業	0	0	0	
出版委員会事業	0	0	0	
製剤技術伝承講習会事業	10,046,000	7,678,848	2,367,152	
製剤技師認定事業	1,724,000	1,179,700	544,300	
製剤セミナー事業	8,168,013	8,426,473	-258,460	
FG統括委員会事業	5,237,004	5,268,384	-31,380	
公開市民講演会事業	510,000	905,870	-395,870	
年会事業	38,916,372	36,913,548	2,002,824	
共通	12,073,000	4,997,405	7,075,595	
小計	80,843,692	81,913,696	-1,070,004	
法人会計	12,449,911	10,736,122	1,713,789	
合計	93,293,603	92,649,818	643,785	

収支予算書（損益計算ベース）
2017年4月1日から2018年3月31日まで

公益社団法人日本薬剤学会　（単位:円）

科目	公1	法人会計	内部取引消去	合計
Ⅰ 一般正味財産増減の部				
1. 経常増減の部				
(1)経常収益				
基本財産運用益	0	200,000	0	200,000
基本財産受取利息	0	200,000	0	200,000
特定資産運用益	300,000	0	0	300,000
特定資産受取利息	300,000	0	0	300,000
受取会費	11,630,000	11,630,000	0	23,260,000
正会員	6,500,000	6,500,000	0	13,000,000
学生会員	850,000	850,000	0	1,700,000
賛助会員	4,280,000	4,280,000	0	8,560,000
事業収益	60,520,000	0	0	60,520,000
学術集会・委員会等事業収益	56,870,000	0	0	56,870,000
参加費	35,265,000	0	0	35,265,000
助成金・補助金	1,400,000	0	0	1,400,000
寄付金・協賛金	5,025,000	0	0	5,025,000
セミナー共催金	3,900,000	0	0	3,900,000
講演要旨集等販売料	0	0	0	0
広告料	950,000	0	0	950,000
出展料	10,330,000	0	0	10,330,000
学会誌等出版事業収益	320,000	0	0	320,000
購読料	150,000	0	0	150,000
投稿料・別刷料	60,000	0	0	60,000
許諾料・使用料	60,000	0	0	60,000
広告料	50,000	0	0	50,000
学会賞等表彰事業収益	2,000,000	0	0	2,000,000
助成金・補助金	500,000	0	0	500,000
寄付金・協賛金	1,500,000	0	0	1,500,000
製剤技師認定事業収益	1,330,000	0	0	1,330,000
受験料	870,000	0	0	870,000
認定料	460,000	0	0	460,000
雑収益	144,000	0	0	144,000
雑収益	144,000	0	0	144,000
受取利息	0	0	0	0
経常収益計	72,594,000	11,830,000	0	84,424,000
(2)経常費用				
事業費	76,917,474		0	76,917,474
給料手当	2,360,000		0	2,360,000
臨時雇入金	3,182,000		0	3,182,000
会場費	19,808,000		0	19,808,000
旅費交通費	3,960,686		0	3,960,686
会議費	1,909,250		0	1,909,250
関連行事費	8,787,000		0	8,787,000
賞状・賞牌・副賞費	3,174,500		0	3,174,500
通信運搬費	917,400		0	917,400
ウェブサイト管理費	1,880,000		0	1,880,000
消耗品費	1,458,000		0	1,458,000
印刷製本費	8,632,000		0	8,632,000
貸借料	1,410,000		0	1,410,000
保管料	250,000		0	250,000
諸謝金	8,328,638		0	8,328,638
租税公課	0		0	0
支払負担金	1,705,000		0	1,705,000
業務委託費	8,560,000		0	8,560,000
雑費	508,600		0	508,600
管理費		12,410,000	0	12,410,000
給料手当		2,360,000	0	2,360,000
旅費交通費		300,000	0	300,000
会議費		1,500,000	0	1,500,000
通信運搬費		1,200,000	0	1,200,000
消耗品費		200,000	0	200,000
減価償却費		100,000	0	100,000
印刷製本費		900,000	0	900,000
貸借料		300,000	0	300,000
租税公課		800,000	0	800,000
業務委託費		3,050,000	0	3,050,000
公認会計士報酬		1,200,000	0	1,200,000
雑費		500,000	0	500,000
経常費用計	76,917,474	12,410,000	0	89,327,474
当期経常増減額	−4,323,474	−580,000	0	−4,903,474
当期一般正味財産増減額	−4,323,474	−580,000	0	−4,903,474
一般正味財産期首残高	0	0	0	0
一般正味財産期末残高	−4,323,474	−580,000	0	−4,903,474
Ⅱ 指定正味財産増減の部				
当期指定正味財産増減額	0	0	0	0
指定正味財産期首残高	0	20,000,000	0	20,000,000
指定正味財産期末残高	0	20,000,000	0	20,000,000
Ⅲ 正味財産期末残高	−4,323,474	19,420,000	0	15,096,526